

題材名「変化する2つの量を調べよう」

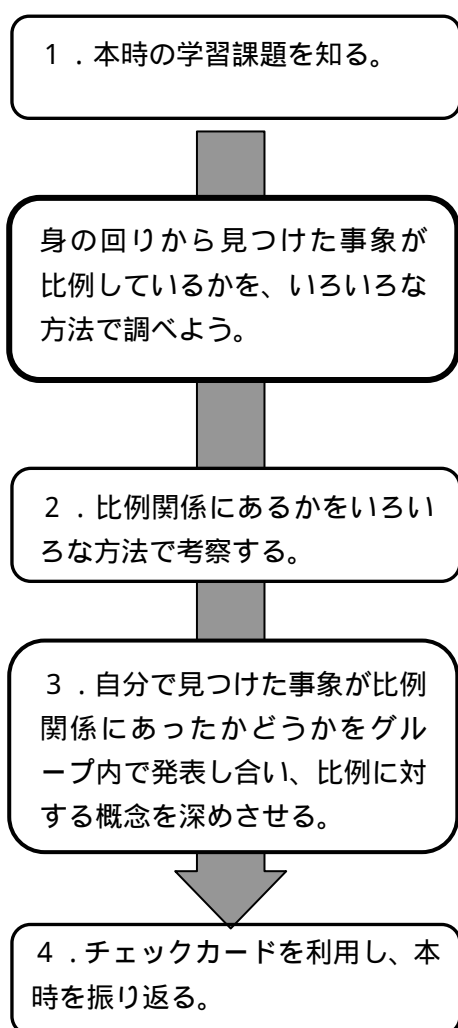
目標

- ・身の回りから見つけ出した事象が比例しているかどうかを、いろいろな方法で考察したり説明したりできる。

コンピュータを活用する利点

児童は見つけた事象が比例関係にあるか否かを色々な方法で検証した。表やグラフ、式をプリントに書いて他の児童にプレゼンした。児童のプリントをスクリーンに映し出しながらプレゼンすることで、本人の思考の過程が整理され、発表者にとってはより自身の考えがはっきりとしてくる。また、他の児童にとっては大きな画面に提示されるので、発表者の思考の過程が視覚的によく理解でき、新たな発見に繋がったり、自身の考えと比較することができる。授業者にとっては、黒板に転写する時間を短縮でき、授業時間を効率よく利用できる。

授業の流れ



ICT 活用場面

自分で見つけた事象が比例関係にあるかどうかを発表し合う場面で使用された。児童がプレゼンする前に教師が発表者のプリントをデジタルカメラで撮影した。それをパソコンに取り込み、プロジェクターを使って投影した。発表児童は、スクリーンを見ながらポイントを示して説明をした。他の児童は、スクリーンを見ながら発表を聞いた。その後、教師が発表内容を簡単に整理して意見をまとめていった。



それをパソコンに取り込み、プロジェクターを使って投影した。発表児童は、スクリーンを見ながらポイントを示して説明をした。他の児童は、スクリーンを見ながら発表を聞いた。その後、教師が発表内容を簡単に整理して意見をまとめていった。

成果と課題

現在学校にある情報機器では提示の仕方に限界があった。つまり、OHC や e 黒板などの提示機器を使うことによって、提示するまでの手間がより省けたり、提示したものに書き込んだりもできる等、さらに効率のよさや活用の幅が広がったように思う。また、プロジェクターの性能が十分でなく、昼間では少し見づらかったように感じた。情報機器の整備とそれらを使いこなせる教員の研修を進めたいと考える。

ICT 活用環境等

使用周辺機器	パソコン、プロジェクター、デジタルカメラ
使用ソフト名	
使用教室	普通教室